

「ご当地牛乳×ラドン温泉×ジオパーク」五感※で体感 函南町の歴史ー 【静岡県田方郡函南町】

※地層を「**視**て」、歴史等を「**聴**いて」、牛乳や温泉を「**嗅**いで」、牛乳・農産物を「**味**わい」、地層、牛や温泉に「**触**れて」体感。

事業の概要

- 土産物屋を中心とした立寄型コンテンツから、当町の基幹産業であり町や県のブランドである「**酪農（ご当地牛乳）**」や、温泉大国伊豆半島で唯一の「**国民保養温泉（ラドン温泉）**」を有する地域の強みと、「**ジオパーク**」等の環境資源を磨き、体験・滞在型プログラムを造成する。
- 「酪農」と「国民保養温泉」を「ジオパーク」・「**ガイド**」と共に深掘りし、140年続く「酪農」の秘密と歴史を学ぶ「**①歴史探索プログラム**」、200年以上利用される「湯治」の効果や歴史を学ぶ「**②健康・風土学習プログラム**」を造成。移動手段を**グリーンスローモビリティ**等で工夫し実証ツアーを行い、造成したプログラムをマニュアル等に落とし込む。更に既存のプログラム等と組み合わせ、**①・②のプログラムを核**とした旅行商品を開発する。
- シンポジウム、体験指導者養成セミナーによる人材育成や、当町における観光客の大半が立ち寄る道の駅から、**周遊を促す体制**を構築。

実施体制

実施主体	函南町農泊推進協議会（以下：協議会）
連携団体との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ①協議会 観光推進担当 → 滞在型コンテンツの提供（酪農、循環型農業） ②協議会 湯治推進担当 → 滞在型コンテンツの提供（湯治） ③伊豆半島ジオパーク推進協議会 → マニュアル等の作成支援 ④伊豆半島ジオガイド協会 → ガイドの育成 ⑤函南町※⑥函南町商工会※産業振興課、教育委員会生涯学習課、健康づくり課 → 事業者間調整、道の駅、丹那断層公園・火雷神社等（ジオパーク）に関する支援 ⑦道の駅・伊豆ゲートウェイ函南 → 周遊プロモーション企画・支援 ⑧グリーンエネルギー推進協議会 → 域内交通の運営・支援「グリスロ」 ⑨函南町観光協会 → 移動手段の運営・支援「ノルディック・ウォーキング」等 ⑩一般社団法人美しい伊豆創造センター → 体験指導者養成セミナー開催 ⑪（株）JTB 静岡支店 → 実証ツアーの支援、旅行商品の開発 ⑫（株）オリエンタルコンサルタンツ → 評価、報告・とりまとめ ⑬静岡県立大学 → 新型コロナ感染症対策の助言・支援

- 地域を挙げて観光コンテンツを磨き上げるにあたって工夫する点
- ①**コース造成に向けた事業者との意見交換・会議（10回）**
・「酪農」「国民保養温泉」「ジオパーク」等の歴史を共有し、資源の掘り起こし、活用方法を検討。**情報共有・機運醸成**。
・資源と移動手段を連携させた**体験・滞在型プログラム**を造成。
 - ②**実証ツアーによる検証及び振り返り会議**
・実証ツアーの全行程への事業者の参加を促し、お客様の生の声を聞くことでコースや課題、改善点等を把握。実施後、**振り返り会議**を実施。課題や改善点を共有し継続的な取組を推進。
 - ③**体験指導者養成セミナー（4回）やシンポジウム（1回）の実施**
・参画事業者を拡大し継続性のある体制を整備する**体験指導者養成セミナー**や、町の資源や課題・可能性の共有のため事業者・住民の機運向上を図る**シンポジウム**の実施

「新しい生活様式」の実践に向けて工夫する点

- ・屋外の体験を主として、当面は家族連れ等の少人数の受入をターゲットに設定。また、**専門家（静岡県立大学）からの助言**を受け、**新型コロナ感染症対策実施マニュアルを作成**。関係者へ周知し活用。「安心だニヤン！函南」の既存の取り組みを改良。
- ・マスク着用等の予防措置、三密を避ける対策を徹底。感染症や事故発生時に備え、関係者との連絡体制を構築。

地域の現状・課題および事業実施により期待される効果

- 【現状や課題】
- 函南町は熱海・箱根に隣接し、体験・滞在型の核となる観光資源開発に遷延する地域。さらに、当町における観光客の**大半が「道の駅」へ立ち寄り、町外へ移動**。効果を町全体へ波及できていない。
 - 基幹産業の「酪農」により得られた「ご当地牛乳（丹那牛乳）」は、静岡県東部における学校給食牛乳や2次産業、飲食店等で幅広く利用される地域資源であるが、**後継者育成の課題**を抱えている。
 - コロナ禍において、観光業は甚大な被害を受けているが、**健康に対する需要**は伸びている。しかし、伊豆半島で唯一の国民保養温泉「畑毛温泉」は、湯治という強みが存在するが**活かしきれていない**。
 - 地域の歴史に関係する「ジオパーク」等の環境資源も、**ガイド不足**により認識されていない。
 - 地域全体でSDGsに沿った目標を掲げ、**資源の認識・共有・育成・継承**が必要である。

- 【期待される効果】
- 立寄型から、体験・滞在型への転換による地域内の**周遊拡大**、滞在時間増加、消費拡大。
 - 酪農家の収益拡大による人材確保、**後継者育成**、2次産業等へのシナジー効果、**ガイドの育成**
 - ポストコロナにおいて、国民保養温泉の高付加価値化、**地域資源としての基盤強化**、**ガイドの育成**
 - シンポジウムを通じた認識・共有による地域活性化への機運醸成、体験指導者養成セミナーにおける参画事業者拡大と**継続的な体制整備**

次年度以降の取組

- 開発した旅行商品の継続的な販売。
- 更なる収益拡大のため、「①歴史探索プログラム」の次なるターゲットを**首都圏及びインパウンドの学校**とし、隣接する著名宿泊地との連携を強化する。
- また、更なる分野と連携し「②健康・風土学習プログラム」は、**新・湯治推進プラン**に向けて開発する。
- 実施体制の役割は継続し、シンポジウムやセミナー等も定期的に行い、**自走した体制を構築**する。

